20201108レムナント教会1部

**ぶれない信仰(Ⅱサムエル記16:1-4)**

 普段は同じ信仰のように思われていても、危機的な状況にぶつかるとその人の信仰がどんなものなのか、どういう色なのかということが明らかになります。ダビデは息子のアブシャロムの反乱によって逃げるようになりました。すべてを失っていたかのように思われる大変な場面です。そのときに以前サウル王の息子だった、友人でもあるヨナタンの息子で、名前がメフィボシェテという足の不自由な人がいました。その人のしもべをしていたツィバという人が、ダビデが行くところに現れてロバを用意しました。ロバを王の家族ために使ってください。パンを用意してパンは若者が食べるようにしましょう。干しぶどうを用意して疲れている者に干しぶどうを役立ててください、としていました。そのときにダビデはこのツィバに「あなたが仕えていたメフィボシェテという者はどうしたのか」と聞いたら、その人は「今日、父の国が私の手に戻ってくる日ですよということでアブシャロムの方についていました」という話をしています。ダビデはサウル王の国が滅びることによってその残りの足の不自由だったメフィボシェテをかわいがり面倒をみてあげたのです。それで王の食卓でいつも一緒に食事ができるように王子の権限を残して、またサウル王のすべてのものをその人のものにしました。それにもかかわらず世的な言葉で申し上げると、恩を仇で返すようなことをしたわけです。しかし、そのメフィボシェテに仕えていたしもべだったツィバは、その主人の元を離れてダビデについてきたわけです。ここでぶれない信仰とぶれる信仰がどんなものなのかということが対照的に示されることになりました。私たちに今許されている条件、状況というものは、常に変わるものです。問題は信者の私たちがその変わりつつある条件、状況などに一緒に流されてぶれる信仰になってしまうのか、そういうことがどれほど変わっても変わることのないぶれない信仰を全うすることによって、神様の祝福の奇跡のわざを見ることができるのかに分かれるようになるということです。なぜせっかく教会に通い、信じますと信仰告白に預かったにもかかわらず、今日のメフィボシェテのように状況によってころころ変わるようなぶれる信仰になってしまうのでしょうか。その答えを今日礼拝に来ている皆さんはぜひしっかりと確認して、自分の答えとして握って、ころころ変わる世の中を歩いているときに、私たちはぶれない信仰の信者として勝利の道を歩んでいきたいと願います。

　なぜぶれてしまうのかと言いますと、状況が変わるからではありません。それはキリストOnlyという信仰の上にしっかり立っていないからです。言葉ではキリスト、キリストと言いながらも、問題はキリストOnlyになっていないのです。聖書が私たちに語っているのは、イエス・キリストのお話ではありません。キリスト・イエスOnlyのお話です。だから、それを嫌っているこの世の流れに流されている、この世からは嫌われて石を投げられるのがキリスト教なのです。それが嫌で妥協することによって適当でいいのではないかとなると、教会の歴史から見ると教会はもはや教会でなくなります。今申し上げましたように、この分厚い聖書、そして、今までの歴史、特に教会の歴史などはキリストOnly、本当にキリスト以外には希望がないということに対して動かない裏付けであり、証拠のかたまりのようなものなのです。それを皆さんが確認することによって、神様がおっしゃっている通りに自分もキリストOnlyという信仰に立たないといけません。人それぞれ教養のレベルも人格的なレベルも知識のレベルも、また財産の程度などもいろいろ違います。それにもかかわらず、そういうことと全く関係なく、クリスチャンであれば皆同じくキリストOnlyの信仰に立たなければなりません。聖書の歴史、特に旧約の歴史、また今までの歴史を見ると、結局は状況がどう変わろうが、どれほど発展しようが、どれほど人間が頑張ろうが、人間の根本のところにある罪には勝てなかったということの裏返し、裏付けではないでしょうか。

　その結果、人はどうあがいていてもサタンの奴隷のままになり、世の流れに、世の風習に流されるしかありません。結局、神様を自ら求めて探していくことなどは一度もなかったし、ありえないことだし、不可能な存在だったという証拠だらけであり、その裏付けばかりではないでしょうか。聖書をそのような目で見てみてください。聖書は裁判の資料のようなものなのです。アダムとエバが創世記3章において罪を犯したということが、アダムとエバの話ではなくて、全人類の話だったという証拠ではないでしょうか。でも、人間は罪の本性を抱えて、悪魔に操られることによって、今申し上げましたこの証拠を真っ向から否定しようとしているし、いちばん嫌がる本性を持っている存在です。その中で私たちは生きていて、その中でずっと人生を歩いてきた者なのです。神様の一方的な恵みによって、この福音のメッセージが聞こえてくることによって、それにうなずき納得して、その前にひざまずいて屈服することになりました。だから、神様は最初から、女の子孫が生まれて、蛇の頭を踏み砕くと、これが希望であり、これが救いであり、これ以外にいのちはありません、これが道なのだとおっしゃったことが納得できるようになります。なるほど、そうなのだねと。時代が変わろうが、状況が変わろうが、どこの民族、どの国であろうが女の子孫が生まれて、蛇の頭を踏み砕く、メシヤ・キリストのほかには道がないのだね、そのほかには希望がありませんと。

　今回、倉敷の集中訓練のときにもこのようなお話を申し上げてきました。キリストOnlyが分かったときに、その反応、結果として、その人の心の中からどういう現象が起こるかと言いますと、今までに影響を受けていたキリスト以外のすべてが崩れ落ちて消え去っていくようになります。今まではこの世を維持するために必要なものに間違いありませんし、世にある様々な法則というものもありますが、それが全部崩れて消えてなくなります。世のどのような法則によって、人間の罪の問題が解決できるのでしょうか。どのような法則に当てはめることによって、人間が神様に会うことができたでしょうか。悪魔、サタンの支配から自由になったのでしょうか。世の法則、道徳、倫理、自分の良心、様々な理論など、自分の頭の中に入力されている主張できるような意見、理解などが全部意味を失うようになること、これがキリストOnlyです。聖書が言いたいのは、「優しい人間の方がいいでしょうか。性格が悪い人間がいいでしょうか」と聞かれたときに、私たちキリストOnlyの人は、どっちなのか分かりません。性格が優しいから人生に勝利するわけでもありません。犯罪者の方がよろしいでしょうか。まじめに生きる方がよろしいでしょうか。犯罪者を擁護するつもりはありません。しかし、キリストOnlyというのは、どっちでも意味を失うようになります。まじめに生きるから人生の罪が消え去るわけでもないし、まじめに生きるから悪魔がギブアップするわけでもありません。だから、キリストOnlyなのです。金持ちがいいでしょうか。貧乏がいいでしょうか。分かりません。キリストOnlyなのです。いじめる人が悪いのでしょうか。いじめられる人が悪いのでしょうか。分かりません。キリストOnlyなのです。すべてが脳細胞の中から白紙に戻らないといけません。それが聖書が言いたいことなのです。この世のどこに行っても、ハーバード大学に行っても、哲学者の方に行っても、この話とは正反対のこと以外には言われることがありません。聖書のほかにはありません。これが真実なのです。優しい親元で生まれて育った方がよろしいでしょうか。離婚した険しい環境で生まれて、そこでひどい目に遭った方がいいでしょうか。私は分かりません。そこに、どこかにこだわるようになれば、まだまだキリストOnlyとは言えません。このキリストOnlyがないのでぶれる信仰になってしまいます。まるで現場で姦淫の罪を犯していた女の人に対して、律法に基づいて、世の法則に基づいて、道徳と良心に基づいて、皆が石を投げようとしていたとき、最終的にイエス様がその女の人に聞きました。「あなたを石で殺そうとしていた人々はどこにいるのか」。その女の人が頭を上げてみると誰もいませんでした。誰もいません。消えて去っていきました。イエスとその女の人だけが残っていました。これがキリストOnlyなのです。正しいか、正しくないか。正しい方がいいでしょうか、正しくない方がいいでしょうか。分かりません。キリストOnlyなのです。正しいからその人が救われるわけではありません。意味が分かるでしょうか。99％のクリスチャンの人がこの意味が分かりません。だから、いまだに教会に通いながら、自分なりにはまじめな誠実な思いで信仰を歩こうとしているけれども宗教になってしまうのです。宗教にいのちはありません。キリスト教は良い人間を作るために、正しい人間をバックアップするためにあるものではありません。罪人を救うためにいのちのためにあるものなのです。せっかく神の恵みによって救いのいのちに預かっているのに、キリストOnlyの意味が分からないのでいまだに悪霊に混乱させられているわけです。

　イエス様がこの現場で姦淫の罪を犯していた女の人とそのやりとりがあった後、ヨハネ8：32においておっしゃったことばです。「真理はあなたがたを自由にします」。この真理こそが今まで私たちがこだわって引っかかっていたすべての理論や法則から自由にしてくれるものです。何一つこだわることなどありません。何かにこだわること自体がもう自由ではなく束縛です。泥棒してもいいでしょうか。分かりません。ただOnlyキリストの中から新しくスタートすると、そこには泥棒などはありません。そういう展開であって、泥棒か泥棒じゃないかによって決められるわけではありません。人間はこうすべきうだ、ああすべきだ、夫はこうすべきだ、だから、奥さんはこうすべきだ、子どもはこうだ、学者こうだ、ああだ。分かりません。キリストOnlyからスタートです。あまりにも私たちの頭の中にはこうすべきだ、ああすべきだ、こうしちゃいけないというものがいっぱいなので悪霊に勝てないわけです。キリストがキリストでなければいけません。キリストOnlyです。昔いじめられたので、親がこうだったので、誰々のせいで、そのようなごちゃごちゃがある限りはキリストOnlyではありません。キリストOnlyなのです。親が優しいと助かるのか。とんでもありません。人間はそんなに簡単な甘いものではありません。罪はそういうものではありません。イエス・キリストが十字架で悲惨な死を遂げない限りは解決できない絶対不可能な問題です。このイエス・キリストの中に、エペソ1：3にあるように、天にある霊的すべての祝福があり、コロサイ2：2-3にあるように、すべての知恵、知識の宝が全部あり、これ以上いらないという意味でまたキリストOnlyなのです。キリストOnlyの信仰に目覚めている者は、死が目の前にやってきていても使徒4：12のように、「世界中でこの御名のほかには、私たちが救われるべき名としては、どのような名も、人間に与えられていないからです」と堂々と告白します。そして、Ⅰコリント2：2、パウロは言いました。パウロのように知識のある優秀な人間が、イエス・キリストの十字架以外には何も言わないことに決心したと。これがキリストOnlyの信仰なのです。キリストOnlyの信仰の上に立ったときに、状況の解釈が変わります。正しいか、正しくないか、誰が良いか、誰が正しいのか、そういうレベルではありません。これはキリストとキリストOnlyの信仰告白とどのような関係があるのだろうか。伝道とどのような結びつきがあるのだろうか。このような問いかけによって状況の解釈に入っていくようになります。人を憎んだり、あるいは不平不満に走ったりということはありません。Onlyキリストなので何も問題などはありません。このOnlyキリストの上に立っているのにもかかわらず、私たちが弱いから昔の刻印によって振り回されるときもありますが、また悔い改めてOnlyキリストを告白しましょう。すべての問題は終わったのだと。終わらないから問題なのです。終わったときに問題ではなくて、自分を、あの人を、この教会をキリストOnlyの方により深く、深く入らせるために、どういう意味があるのだろうか。伝道とどのような関係があるのだろうかという目で見ていくのでぶれることなどありません。

　しかし、キリストOnlyの信仰に立たないと、何かの事柄の表ばかりを見て、その裏を見ることができません。裏にある神様の導き、裏にある霊的事実を見ることができないので、表に捕らわれることによって、その表の状況が変わるたびにころころ一緒にぶれるしかないわけです。キリストOnlyの信仰に立たないといけません。このメフィボシェテという人は、先ほど申し上げましたように、ダビデから非常に恩を受けるようになります。それは感謝していたかもしれません。けれども、心の中でこのダビデが自分の父親の国を奪ったのだという思いはそのままなのです。自分のレベルで言うと、そのように映ったのでしょう。だから、それが傷として残るわけです。表ばかり見ると、それは必ず傷になります。そして、徹底的な瞬間、その傷がメインになって、傷を中心に動かされるようになるというのが人間なのです。自分の目にはそのように映ったでしょうけれども、裏を返してみると、それは神様が全人類のためにキリストの契約のために、サウロ王ではだめなのでダビデを立てたわけです。その契約から見ると、この父を愛していらっしゃる神様の導きを見ていたのなら、そのような傷を持つべきではなかったでしょう。けれども、メフィボシェテという者は、事の表ばかりを見ていたのでう。先ほども申し上げましたように、アダムも同じなのです。アダムの妻エバがアダムを誘ったのは間違いありません。だからといってエバのせいなのでしょうか。それは表なのです。エバは蛇に誘われて罪を犯したので、この蛇に誘われて...。それも嘘ではありません。しかし、表だけなのです。人生は私たちが見て判断している表だけのものではありません。目に見えない裏の事実、霊的事実というものがあります。しかし、表ばかりを見ていると不安を抱えて誰かのせい、つぶやきばかりで、それが世界的に解決にならないいちじくの葉をつづり合わせるようになるしかありません。しかし、本当の裏の裏は、黙示録12：9、古い蛇、悪魔、サタンとも呼ばれる世界を惑わしている者が、本当の裏にいたわけです。蛇が蛇ではなくて、目に見えないのです。表ばかりではなくて、その古い蛇、悪魔、サタンという裏を見たのであれば、不平不満などに走らず、いちじくの葉などに頼りません。それは宗教と同類です。神様の御声、それ一本に絞られるでしょう。創世記3：15、女の子孫が生まれて、蛇の頭を踏み砕く。キリストOnlyの方に行くようになり、必ず勝利するようになります。

　ある牧師のお話を聞きました。その牧師がクリスチャンになる前の小さい頃、父親がアルコール依存症みたいな人で、毎日酒を飲んで、家を壊して、お母さんに暴力をふるっていたそうです。長男はそうなるといらだって外に出ちゃうので、次男坊が自分で全部カバーしないといけませんでした。いつも飢えています。その心の中にどれほど傷があったでしょう。それでお父さんは加害者、お母さん、うちの家族は被害者なのだと、皆そう思うのです。それでかわいそうだと思うでしょう。それで終わりです。その事実を否定するつもりはありません。しかし、クリスチャンになってから、その裏の目に見えない霊的事実、それを見るようになりました。キリストが分かったとき、それが見えるようになります。キリストはその裏の裏のために来られた方なのです。裏の古い蛇、悪魔、サタンということが分かったときに、この人の傷がいえたわけです。お父さんが加害者だと思っていたのに、実はお父さんもある意味、被害者なのだねと。本当の加害者は古い蛇、悪魔、サタンなのだね。だから、お父さんもキリストが必要で、私たちにも優しいお父さんではなくて、キリストが必要だったのだねと。そうでないと教会に通っていても、傷によってぶれるようになるしかありません。自分の話で申し訳ありませんが、私も小さい頃、母親が病気で早く亡くなったので、いつも幼い心の中で「なぜ私だけが両親がいなくて、片親しかいない家庭なのか」と思い、それがいつの間にか心の傷になって、比較意識に走るようになり、自分も知らずに劣等感のかたまりのようになったのです。それは事実なのですが表なのです。私の母親はものすごい仏教徒だったのです。小学生の私は母親に一番影響を受ける者になるでしょう。しかし、神様は私を今の私のようにする計画を持っていらっしゃるので、そのプロセスの一つだったということです。それから、小さい頃からお父さん、お母さんという両親によって幸せに生きるものではなくて、まことの父親である神様による幸せを小さい時から正しくしっかり味わって勝利の人生を歩みなさいという裏の神の御心があったのにもかかわらず、私は神様を知らずにいたので、全部が傷になりました。表ばかりを見ると、裏が分かっていないと全部傷になり、それが比較意識、違う意識、それがエスカレートすると被害妄想に走ることによって、統合失調症などになってしまうわけです。表ばかりを見ているから。その裏である古い蛇を見ていれば憎しみや被害意識ではなくてキリストを握るしかありません。私が神様のことを知らないで、神様によって幸せ、神によって満足していれば、そのような比較意識、傷など負う理由などなかったのに、そこが問題だったのです。結局はキリストを知らなかったからなのです。

　もう一人、聖書の人を申し上げましょう。ヨセフは腹違いの兄弟たちにいじめられました。それは紛れもない事実です。いじめられて結局は奴隷として売られることになりました。兄弟によってです。どれほど悲しいことでしょうか。その表面はそうなのです。しかし、そのお兄さんたちの裏を見ると、創世記3章の原罪に捕らわれてそうせざるをえない者であり、かわいそうでキリストが必要な者なのです。そして、ヨセフは表ばかりを見ないで、小さい時から裏が分かっていた者なのです。だから、そのことに対して根に持って傷として負っているわけではありません。創世記45：5において、歯ぎしりをして憎いと思っても仕方のない兄弟に会ったときにヨセフは言いました。「私を売ったことで心配しないように。神様があなた方を救うためにこの世を生かすために、私を先に送ったのです」。それが裏の事実です。神様は裏の事実なのです。表ではいじめられるかのように思われていても、いじめられることによって皆が精神的におかしくなるのではありません。しかし、いじめらることによって精神的におかしくなる人、被害意識に走る人があまりにも多いので、先に経験させることによって、残りの生涯、そのような人間を助けなさい、キリスト以外に道はないのだよということを学ばせるために許されたことなのです。ヨセフはそれが分かっていたのでぶれませんでした。一度もぶれることはありませんでした。濡れ衣を着せられて刑務所に入れられてもぶれることはありませんでした。これが神の契約を全うしていくためのプロセスだったのだねと分かっていたので。今まで生まれてここに至るまで、残念なのは教会に通っていても、この神の裏の事実についてまったく無知のままで、自分が分かっていることがすべてであるかのように思うからみことばが聞こえてこないし、いやされないし変わらないのです。地球の歴史、人生そのものは表だけではありません。私たち人間のいのちを維持するための酸素でさえ目に見えません。一番大切なたましいのための神様の導き、目に見えないけれども事実の上の事実なのです。表ばかりを見て裏の裏を見ることができないのでぶれるわけです。いまぶれるという優しい表現で申し上げましたが、サタンに操られるようになるわけです。自分も気がつかないうちに。これがぶれる信仰とぶれない信仰の差です。

　今日礼拝を捧げましたレムナント教会の兄弟姉妹の皆さん、キリストOnly、イエスOnlyにならざるをえない根拠をぜひ確認してください。そして、それを認めましょう。それで誰が何と言おうが、キリストOnlyの信仰の上に立ちましょう。それが一回で分かって決心することでずっと続くわけではありません。しかし、一回の悟りの決断が大切なのです。それからは目をつぶって静かにそれを繰り返し、繰り返し、自分の頭の中で確認して、確認して、確認していかないといけません。私たちの脳細胞の中には表ばかりが刻印されているわけですから。人はこうすべきだ。そうすると人生変わると思いますか。そう思っている限り、キリストOnlyにはいかないわけです。そうなると状況が変わり、条件が変わると、自分のレベルに合わせて右往左往するしかありません。キリストOnly、それを裏にして、その目ですべての事柄を見るようにしましょう。特に、先ほども申し上げましたように、自分の過去を振り返って、キリストOnlyという命題をもって改めるようにして見ましょう。誰かが悪い、こちらが正しい、誰かのせい、何かのせいというものが消えるようにならないといけません。それは皆さんを唯一のいのちであるキリストへと導かれるための神様の導き、配慮だったのです。裏返しますと、そうならないように悪魔が暴れていたことなのです。そこから自由になるようにしましょう。傷がいえるように。私たちには傷などはいらないものなのです。神様の配慮でした。このような本当の意味でのぶれない信仰、いやされた信仰に立って、それから今この世を見渡して見てください。この答えが分かっていないまま、いまだに私が正しい、あなたが正しいとつぶしあうような、そうじゃなければ立っていられないような思いで必死ではないでしょうか。それは実はさまよっていることなのです。答えがないので。主張が強い人間、頑固な人間なのは束縛されているからなのです。Onlyキリストの人は、黒人には黒人、白人には白人、ユダヤ人にはユダヤ人、異邦人には異邦人に合わせられる余裕があるわけです。どっちでも真理ではないからです。真理はキリスト以外にはありませんのでぶれることがないわけです。まことの余裕を持つようになります。そのようにさまよっている人々と揺れている人々、人生に、本物のいのちの答えを提供する信者として現場に立たれることを期待して祈っていきたいと願います。

（祈り）

恵み深い天の父なる神様。ありがとうございます。神様の一方的な恵みによって、絶対不可能な地獄の運命から救い出されていのちが与えられ、最高の幸せな者、神の子どもになりました。この世を照らす光として託されていることをありがとうございます。サタンはこの私たちを恐れて信仰がぶれるように策略を用いていますが、それを逆手にとってさらにキリストOnlyの中に入り、そして、物事の裏を見ることができる霊の目が開かれて、残りの生涯、世の光として、さまよってぶれている人生を助けることができるように、どうか導いてください。イエス・キリストの御名によってお祈りいたします。アーメン。